

代表機関：広島大学

課題名防ぎえた失明をゼロにする、 緑内障診断支援AIに関する研究開発

分担機関：株式会社ThinkOut、国立がん研究センター東病院

研究期間：令和6年5月～令和7年3月

研究目的・内容

- 失明は、生活の質の低下、死亡リスクの増加(健常人の2.3倍)、経済生産性の低下をきたすことが知られている。
- スマホ眼底カメラ（簡便に眼底を撮影できる、スマートフォンに連携するアタッチメント機器）に、遠隔診療機能と世界初のAIを活用した緑内障診断支援プログラムを実装することで、特に本邦における失明原因第1位である緑内障について、地理的・経済的要因に関係なく、患者が早期段階で眼科診療を受け、失明するリスクを減少させることを目的とする。

今後の展開

- 本研究開発により遠隔診療と診断支援AIに最適化したスマホ眼底カメラと緑内障モデルの組み合わせに関する初期データを取得し、必要な要求仕様を決定した、真のプロトタイプ機の実装を行う。
- 僻地などインターネット接続環境の悪い地域でも速やかに眼底画像と患者データをスマホからcloud上にアップし、地理的・経済的要因に関係なく患者は早期からの緑内障診療を受けることで、「防ぎえた失明」をなくす。

クラス分類：2

スマホ眼底カメラ



スマホ眼底カメラと遠隔診療 (緑内障診断支援AI)

